



ミュージアム・レター

Gakushuin University
Museum of History

Museum Letter No.15

発行日 ● 平成23年(2011)3月10日

もくじ

ごあいさつ.....1

「明治の視覚革命! -工部美術学校と学習院-」展
プロローグ.....2

工部大学校・学習院・ジェラルド瓦.....3

Information.....4

- ・『学習院 目白の学び舎 - 学内に遺る歴史ある建物』のご案内
- ・史料館講座のご案内

1. ごあいさつ

学習院大学史料館では、4月8日から、展覧会「明治の視覚革命! -工部美術学校と学習院-」を開催いたします。今回の展覧会タイトルの「視覚革命」という言葉に当惑された方がありましたら、白い紙と柔らかい鉛筆を御用意下さい。まず、紙の上にだいたい同じ大きさの円を二つ、少し離して描きます。円の一つはそのままにして、もう一つに手を加えます。円の左右どちらかの輪郭の内側に何本か線を引き、指先でこすります。それだけで、円が球のように見えてきたのではないのでしょうか。陰影を付けたことにより、絵に立体感が生まれたのです。さらに、いま暗くした側の輪郭の外、やや下のほうに、横に平行線を何本か引き、また指先でこすります。これは、光が当たった球体が反対側に落とす影、つまり投影を描いたことになります。もう一つの円は紙面に留まっていますが、陰影や投影を加えた円は、球として紙面から浮き出して見えるはず。紙の上の円しか知らなかった人が、紙の上に球が描けるのを目の当たりにし、その技法をわがものとしたなら、革命的ともいえる意識と視覚の変化を経験するでしょう。明治の美術教育で起こったのが、この革命だったのです。

日本の伝統的絵画では光や影は描かれませんでした。光がものにあたって影ができることは誰でも知っていたはずですが、それを描くことはなかったのです。江戸末期に西洋の版画や油彩画が日本に紹介されたとき、陰影など光の効果を描く明暗法は、三次元空間をそれらしく表す線の遠近法(透視図法)と共に、現実を本物そっくりに捉える素晴らしい技として人々を魅了しました。そのような絵を通じて、人々はそれまで見逃していた現実の中の光と影に改めて注目したかもしれません。見様見真似で似たような効果を追求した画家もいます。明治になると、教育の場でこうした技法が組織的に教授されたのでした。

本展では、明治政府の「お雇い外国人」の教師が新たな美術教育を始めた工部美術学校の史料や、同校出身の図画教師が教えた学習院中等学科の史料などを通じて、皆様に「明治の視覚革命」を体験していただくことをめざしております。今回も多くの方々のご理解と御協力によって、展覧会を実現することができます。厚く御礼申し上げます。

(館長 高橋裕子)

平成23年度 学習院大学史料館特別展
「明治の視覚革命! -工部美術学校と学習院-」

- ◆会期 平成23年(2011)4月8日(金)~6月11日(土)
平日12:00~17:00 土曜日10:00~17:00
- ◆休館日 日曜日、祝日
但し、4/17(日)オール学習院の集いは、10:00~17:00特別開館
- ◆会場 学習院大学史料館展示室(北2号館1階)
- ◆入場無料・事前申込不要
- ◆ギャラリートーク 4月17日(日)・5月21日(土) 14:00~15:00
※史料館展示室入口にお集まりください

